

# 第 28 回環境工学連合講演会

(The 28th National Congress for Environmental Studies)

日 時：平成 27 年 5 月 15 日（金）9:15～18:00

場 所：日本学術会議講堂（東京都港区六本木 7 丁目 22-34、電話(03)3403-1056）

[交通] 東京メトロ・千代田線『乃木坂駅』下車、青山霊園出口を出てすぐそば

主 催：日本学術会議 土木工学・建築学委員会学際連携分科会

共 催：○(公社)化学工学会、(公社)環境科学会、環境資源工学会、(公社)空気調和・衛生工学会、  
(公社)高分子学会、(一社)資源・素材学会、(公社)地盤工学会、静電気学会、(公社)大気環境学会、  
(公社)土木学会、日本 LCA 学会、(公社)日本化学会、(一社)日本機械学会、(一社)日本建築学会、  
(公社)日本水道協会、(公社)日本セラミックス協会、(一社)日本鉄鋼協会、(一社)日本土壌肥料学会、  
(公社)日本分析化学会、(公社)日本水環境学会、(一社)廃棄物資源循環学会（50 音順、○印は幹事学会）

平成 24 年（2012 年）の Rio+20 を機に国際科学会議（ICSU）等の 7 つの学術コミュニティの連携のもとで進められている「Future earth」が平成 26 年（2014 年）より本格的に動き始める。「Future earth」が目指すものは何か？また、環境工学はどのように貢献できるか？本シンポジウムでは、「Future Earth」への取組に関する特別講演と官・学・民の研究者および技術者による学術成果、技術成果の発表、討議を通じ、こうした問いに応えながら、バランスのとれた環境工学の発展像を探る。

## プログラム 総合テーマ：『Future earth：工学が果たす役割について』

午前部

■開会（9:15～9:20）開会挨拶：嘉門 雅史（日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授）

□【Future earth を見据えて（9:20～10:20）】座長：高島 和則（静電気学会／豊橋技術科学大学環境）  
地球環境保全に貢献する科学技術の動向 浦島 邦子（静電気学会／科学技術・学術政策研究所）  
Future Earth における日本のリーダーシップ 福士 謙介（土木学会／東京大学）  
Future Earth に向けた工学の再定義 安井 至（日本化学会／（独）製品評価技術基盤機構）

□【Future earth への貢献を考える（10:20～11:40）】座長：岸本充生（環境科学会／東京大学）  
環境工学としての化学工学－Future Earth への貢献 黒沢 厚志（化学工学会／エネルギー総合工学研究所）  
サステナビリティ学による Future Earth への貢献と今後の課題 齊藤 修（環境科学会／国連大学）  
持続可能な未来のための大気環境科学－霧と露の化学研究からの展望－ 井川 学（大気環境学会／神奈川大学）  
Future Earth への Human Activity Stress の定量評価手法としての LCA  
原田 幸明（日本 LCA 学会／物質・材料研究機構）

□【環境の理解から（11:40～12:40）】座長：小林 潤（廃棄物資源循環学会／工学院大学）  
身体・建築・地球環境—その繋がりを考える— 宿谷 昌則（日本建築学会／東京都市大学）  
全球的理解のための地球観測技術とネットワーク化 野尻 幸宏（日本分析化学会／国立環境研究所）  
熱帯アジア・アフリカ地域の稲作の安定化と拡大におけるケイ酸の役割  
増永 二之（日本土壌肥料学会／島根大学）

午後の部

■【特別講演（13:30～14:00）】座長：依田 照彦（日本学術会議第三部会員、早稲田大学）

### Future Earth への我が国の取組の現状と課題

春日 文子（日本学術会議連携会員、国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長）

□【都市・システムの設計から（14:00～15:20）】座長：秋元 孝之（空気調和・衛生工学会／芝浦工業大学）

再生可能熱エネルギー利用と社会的仕組みづくり  
秋澤 淳（日本機械学会／東京農工大学）  
持続可能な低炭素都市を支えるエネルギー自立型建築  
丹羽 英治（空気調和・衛生工学会／㈱日建設計）  
気候変動に適応した持続可能な都市圏水利用システム  
古米 弘明（日本水環境学会／東京大学）  
スマート都市と水インフラへの情報制御技術の貢献  
舘 隆広（日本水道協会／㈱日立製作所）

□【資源循環から（15:20～16:40）】座長：肴倉 宏史（地盤工学会／国立環境研究所）

レアメタル循環型社会の重要性とリサイクル技術  
藤田 豊久（環境資源工学会／東京大学）  
難処理鉱物資源のバイオハイドロメタラジの潮流  
笹木 圭子（資源・素材学会／九州大学）  
低炭素社会と循環型社会に向けた地盤工学における取り組み～他産業廃棄物のリサイクルを中心に～  
ハザリカ ヘマンタ（地盤工学会／九州大学）  
水銀の環境上適正な管理について  
高岡 昌輝（廃棄物資源循環学会／京都大学）

□【新材料の開発から（16:40～17:40）】座長：阿部 英喜（高分子学会／理化学研究所）

プラスチック、ゴム製品のバイオマス原料使用率の評価法とその ISO 国際標準規格  
国岡 正雄（高分子学会／（独）産業技術総合研究所）  
セラミックス分野における環境関連材料研究  
三宅 通博（日本セラミックス協会／岡山大学）  
炭素循環技術による低炭素社会への貢献  
加藤 之貴（日本鉄鋼協会／東京工業大学）

■閉会（17:40～17:45）閉会挨拶：細見 正明（第 28 回環境工学連合講演会運営委員長/化学工学会）

定員：200 名(申込先着順／定員に余裕がある場合は当日の参加も受け付け致します。)

参加費：無料／講演論文集を別途 2000 円（学生 1000 円）にて会場で有料頒布

参加申し込み：2 月 16 日（月）から 5 月 14 日（木）までに下記 Website よりお申込み下さい。

<http://www.scej.org/>

問い合わせ先：(公社) 化学工学会事務局 (担当 老田)

〒112-0006 東京都文京区小日向 4-6-19

TEL:03-3943-3527, FAX:03-3943-3530, E-mail:oida@scej.org